

## 大阪自然史フェスティバル 2016 におけるユリカモメのカラーリング調査のブース展示 須川恒(カラーマーキング鳥類調査グループ・関西)

大阪市立自然史博物館で毎年秋に開催される大阪自然史フェスティバルや大阪バードフェスティバルの場で、カラーマーキング鳥類調査グループ・関西としてカラーマーキング調査について普及啓発するためのブース展示を4回(2009年、2010年、2015年、2016年)行った。毎回の展示内容は異なっているが、2016年11月19・20日の大阪自然史フェスティバル 2016でおこなった『ユリカモメのカラーリング調査は世界をむすぶ』をテーマにした展示内容について紹介する。

2日間、室内の1.2m×2.7mのスペース(机2つ、椅子6つ、電源あり)のブース展示を無料で行うことができた。展示に必要なものは宅急便で会場へ送り、終わってから着払いで会場から送りだすことができた。

机上に各種のカラーリングの実物を展示した。また刻印する素材のプラスチックシート、ルーターなどの刻印道具、リングを低温で丸めるためのホットプレートを机上に置き、ホットプレートをあたためてリングを丸める作業を見せた。

背面の壁を1)～3)のコーナーにわけ、ポスターを通して説明をおこなった。

1)『新聞記事(1974年～1994年の20年間)からたどる鴨川におけるユリカモメの標識調査(日本とカムチャツカの交流史)』

京都の鴨川ではじまった初期のユリカモメの標識調査活動を当時の新聞記事を通して紹介した。1978～79年冬に各地で金属標識のついたユリカモメ(幼鳥)が見つかり、京都にユリカモメが越冬をはじめた1974年から「ユリカモメ日記」を書いて観察をしていた故大槻史郎氏に須川が出会い、1979年2月からユリカモメのカラーリングによる標識調査がはじまった。その後、繁殖地のカムチャツカとのつながりや越冬地間の移動、越冬地への定着性が明らかになり、それら経過の多くが新聞記事となって紹介された。

2)「ユリカモメに白Pの足環をつけたのはだあれ」カラーマーキングネットワーク物語。カラーマーキング調査では情報共有のためにポータルサイトが重要である。その意義を知ってもらう実例として、ロシアのマガダンで白Pの足環をつけたユリカモメが発見され、ロシアのブログにその写真が掲載されてから、一週間で千葉県調査者(行徳の佐藤達夫さん)と連絡がついた経過を展示紹介した。

3) TKさんの武庫川撮影記録より

TKさんが2012～2016年冬に兵庫県西宮市武庫川で丹念に撮影したユリカモメの標識個体の画像を、兵庫県立川西明峰高校の生徒が先生の指導のもとに、多数の標識されたユリカモメの撮影画像を読み解き、関西と関東の標識情報からユリカモメの定着性や渡りについて解明した結果をポスター発表した。

ブース訪問者が詳細を知ることができるように、カラーマーキング鳥類調査グループ・関西のサイト情報をQRコード(図)でも印刷した資料を配布した。

<http://larus.c.ooco.jp/COLORBIRD.htm>

